

国立大学法人鹿児島大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

鹿児島大学は、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程の基盤となる共通教育の改善を図るとともに、専門教育の質を保証するシステムを確立すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、現行の共通教育カリキュラムを分析し、共通教育改革計画書を策定するとともに、継続的な学びによるグローバル人材育成を目指す「進取の精神グローバル人材育成プログラム（P-SEG）」を開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、獣医学教育の改善・充実を図ることを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成26年度においては、国立獣医系4大学群（北海道大学、帯広畜産大学、山口大学、鹿児島大学）による獣医学教育の国際認証取得に向け、有識者による事前診断を実施し、指摘事項を踏まえたカリキュラム改善に着手しているほか、国立獣医学系大学連携教育システム（GLEXA）において、4大学それぞれの地域性や特色を生かした教育コンテンツを4大学の学生が自学自習できるように配信している。

（機能強化に向けた取組状況）

人的資源を弾力的に配置するために教育研究組織を教員組織と教育研究組織に分離し、新たな教員組織として「学術研究院」を平成27年4月に創設することとしているほか、特に南九州地区の企業・自治体等の活性化や雇用の創出に係る諸課題の解決につながる活動支援等ができる研究開発技術者の育成等を支援するため、大学院理工学研究科の附属教育研究施設として、新たに「地域コトづくりセンター」を平成27年度に設置することを決定している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 多様化する学生の生活支援機能の強化に向けた体制整備

学長を補佐する体制を強化するため、これまで教育担当理事が担ってきた学生の生活支援に関する事項を処理する学生生活担当の副学長を新たに任命するなど、多様化

する学生に応じた心の健康支援や複雑化する社会に応じた経済支援等の学生生活支援を強化整備する体制を整えている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成25年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の節減、
③資産の運用管理)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ ターゲットの特性に応じたウェブサイトの利便性向上に向けた取組

ウェブサイトについて、デザインの検討や発信する情報の優先度を整理するなど利用者にとってより見やすく、かつ高校生全体の大多数が利用しているスマートフォンからアクセスしやすくなるようリニューアルした結果、スマートフォンからのアクセスは平成27年1月から3月の間に27万件(対前年度同時期比8万件増)となっているほか、国際化に向けた情報発信の手段としてスマートフォンにも対応した英語版ホームページの制作を進めるなど、さらなる充実を図ることとしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用、②安全管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ **学長のリーダーシップによる全学的視点からの施設の有効利用のための取組**

今後の共同利用スペースの需要に対応するため、「鹿児島大学における施設等の有効利用に関する基本方針」と「学内施設の共同利用スペースの確保に関する指針」の全面的な見直しに着手し、学部等からの意見も聴取した上で、抛出スペースを 4,300 m² から 7,300 m² に拡大させる「鹿児島大学における施設等の有効利用に関する規則」の原案を作成するなど、学長の強いリーダーシップによる大学資源の有効活用を推進している。

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ **毒劇物・麻薬等の不適切な管理**

「麻薬及び向精神薬取締法」の規制対象であるケタミンが教員により自己使用されていたことから、管理・保管体制について徹底した見直しを行い、再発防止に向けた積極的な取組を行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 14 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、「麻薬及び向精神薬取締法」の規制対象である物質の適正な管理・保管が行われていなかったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ **共通教育の改善・充実のための取組**

共通教育の改善・充実のため、教育センター長や各学部教職員、非常勤講師等との間で意見交換を行う「共通教育懇談会」を設置し、本懇談会での議論等を基に共通教育の抜本的な改革の必要性を記載した「共通教育改革計画書」を策定しているほか、共通教育科目として新たに「進取の精神体験学習 in 鹿児島」等 3 科目を提供し、260 名を超える学生が受講している。

○ **大学院共通教育における外国語コミュニケーション教育の充実**

英語教育に対する学生ニーズ調査を踏まえ、大学院共通科目として新たにコミュニケーション能力への対応や文系・理系別を考慮した「プレゼンテーション・スキルズ (文系)・(理系)」及び「リーディング&ライティング (文系)・(理系)」を新たに開講している。

○ グローバル人材育成に向けた教育プログラムの積極展開

海外研修、事前・事後学習、語学学習、留学等を通じ、継続的な学びによるグローバル人材育成を目指す「進取の精神グローバル人材育成プログラム（P-SEG）」を開始し、米国、シンガポール、バングラデシュ、ブラジル、インドネシア、韓国等において海外研修を行い、それぞれの国の多様な課題に向き合い、考え、挑戦させる取組を実施している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 地域と連携した助産分野の強化

地域との助産分野の連携を行うため、「鹿児島県助産師出向支援モデル事業」へ参加し、民間や公的病院等との連携強化を行っており、民間病院への助産師の派遣（1名、6か月間）、民間病院との助産師の相互研修、公立病院の副助産師長の新生児特定集中治療室への研修受入れ等を実施している。

（診療面）

○ 救命救急センターの指定による24時間体制でのチーム医療の推進

鹿児島県から救命救急センターの指定を受け、これまでの集中治療室15床に救急部10床を加えた計25床で運用するとともに、新たに専従医や看護師を配置するなど、24時間体制でチーム医療を推進し診療を行う体制を構築している。

（運営面）

○ 多数傷病者受入訓練の実施による防災意識の向上に向けた取組

大規模災害発生を想定した多数傷病者受入訓練を実施しており、職員のみならず消防関係者や医学部、歯学部学生など院外からの参加者も含め約290名が参加し、非常時の院内各部署の職員の連携体制を確認することにより、防災意識の向上に役立てている。